

令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る署名式の実施

3月4日、令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件の3つの案件の署名式が大使公邸にて開催されました。

署名が行われた3つの案件の実施内容と各代表のあいさつは以下の通りです。

1. 「中央マシヨナランド州における地雷除去計画」

このプロジェクトは、国際NGO「ヘイロー・トラスト」に対して624,907米ドルの資金を供与し、ジンバブエ北東部の中央マシヨナランド州ルシंगा郡のワード1,7及び22の計150,000㎡のエリアにおいて地雷除去活動を実施し、地域住民に対する地雷の脅威を取り除き、安全な環境で農業及び畜産業に従事できる環境を整えるものです。

フリッカー・プログラムマネージャーは、プロジェクトの実施によって、以前は地雷源を避けるために迂回していた子どもたちの通学時間が短縮されたり、農地や水への安全なアクセスが可能となっているとし、2025年までに地雷を完全に除去するというジンバブエ政府が掲げる目標の達成に向けて邁進したいと述べました。

2. 「ムザラバニ郡ウテテ中等学校における教育環境改善計画」

このプロジェクトは、国際NGO「ワールド・ビジョン・ジンバブエ」に対して90,894米ドルの資金を供与し、ムザラバニ郡にあるウテテ中等学校において、新規教室棟2棟、教員寮1棟を建設し、学習机等の家具を整備することにより、教育環境の改善を図り、同郡の基礎教育の質を向上させることを目的とするものです。

イッシュ・ナショナルダイレクターは、プロジェクトは、当団体だけでなく、地方行政及び地域が一丸となって取り組むべきものであり、協力体制があつてこそ、プロジェクトの成功、ひいては子供たちにとってより良い学習環境が実現されると述べました。

3. 「ビキタ郡マシヨコ・クリスチャン病院におけるレントゲン機材整備計画」

このプロジェクトは、国際NGO「ソリダールメド・ジンバブエ」に対して122,445米ドルの資金を供与し、マシゴ州ビキタ郡に位置するマシヨコ・クリスチャン病院において、日本製（富士フィルム）のデジタル式レントゲン機材を整備することで、効率的かつ精度の高い検査診断を実現し、地域住民への適切な医療の提供を図るものです。

ブング同病院医師は、一部の患者はこれまで、車で3時間かかる近隣病院でのレントゲン撮影を強いられており、経済的制約から撮影を受けられない患者が多くいたが、これからは同病院において質の高いレントゲン撮影を行い、正確な診断を受けることができるようになる」と述べました。

同式典に出席した岩藤大使は、プロジェクトにおいて重要なことは、完成後いかに長く施設が活用されるかであり、そのために、プロジェクトの初期段階からコミュニティを巻き込み、誇りとオーナーシップの意識を持って、しっかりと手入れ・修繕を行い、長きにわたり裨益効果が発揮されるよう期待すると述べました。

ヘイロートラスト



ワールドビジョン・ジンバブエ



ソリダールメド・ジンバブエ



全体写真

